

地域共生社会と地域における

公益的な取組について

「社会福祉法人ライフの学校
福祉を地域にひろくここの意義」

平成28年度の社会福祉法の改正により、「地域における公益的な取組」が社会福祉法人の責務として位置付けられました。

地域共生社会の実現が求められている中、宮城県内の各社会福祉法人でも、地域の実情に応じた福祉サービスの更なる充実を図ることができよう、この取組が始まっています。その中でも、積極的にこの取組を実施している社会福祉法人ライフの学校について理事長 田中伸弥さんにお話を伺ってきました。



▲ライフの学校理事長 田中伸弥さん



▲仙台市若林区上飯田にあるライフの学校「萩の風キャンパス」
特別養護老人ホーム萩の風をはじめ、ショートステイ、居住支援センター等を運営しています。

地域における公益的な

取組のきっかけ

構想は、「地域における公益的な取組」の実施が明記された平成28年度から始まりました。平成30年9月、地域の小学校のおやじ会と共に「駄

菓子屋かみふうせん」を開設、近隣の子どもたちが集まり、ライフの学校のパートナー（利用者）とゆるく交わる様子が徐々に増え、老人ホームが「地域にひらかれた場所」になるための第一歩を踏み出しました。

令和2年4月に「ライフの学校」へ法人名称を変更し、『支えあつて、学びあつて、すべての人生を豊かに』の法人ミッションのもと、子どもからお年寄りまで世代を問わず、パートナーや地域住民同士が関わり合うことができるプラットフォームを作るべく、様々なイベントを企画するようになりました。

地域のための 社会福祉法人としての役割

こうした「福祉をひらいていく」取組について、地域の方からは賛否両論の声があったのも事実です。そうした中で地域の小中学校の連携からなるコミュニティ・スクールの委員にとお声がけいただき、学力の課題や学校で対応しきれない様々な問題を知る機会になりました。そして定年された元校長先生の力を借りて、地域の二つの小学校の高学年を対象に子どもの学習支援教室を行うこと

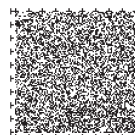
にしました。地域の回覧板でこの取組を発信したところ、新たに元養護教諭の先生が参画してくれました。こうして、福祉に限らず教育や防犯など地域の各々の分野の方と意見交換し、互いの顔の見える関係ができ、誰かの困りごとを、地域の一員として当事者意識を持って支えあうことができる関係を目指すきっかけになっています。



▲学習支援に2つの小学校から集まる児童の皆さん学区に関係なく和気あいあいとしながら学んでいます。



▲学習支援教室では少し離れた小学校へは車でお迎えに行っています

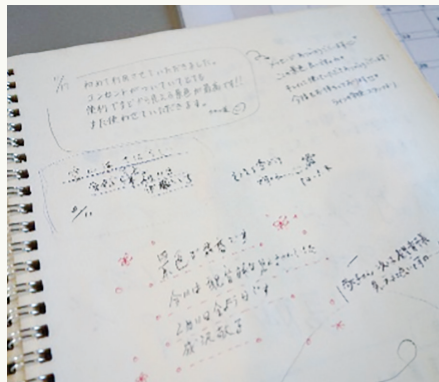


また、毎週土曜日には、ライフの学校をご利用されているパートナーが先生になって「人生」について語る『ライフストーリー学』や、認知症や福祉について語り合うイベント『LIFE BAR』、外部から講師を招いて『オープン看取り学』などを企画し、ライフの図書館や庭を開放する等、幅広い世代の地域住民が集い、関りを持てる場所となるよう工夫しています。

昨今、出産、子育て、学業、就業、老いる、介護、看取る、通夜・葬儀など、ライフステージの様々なイベントは、「社会化」され地域から消えてしまったことにより、身近に感じる機会が減少しています。現代社会では他者への関心が薄れ、「迷惑をかけたくない」気持ちが先行し、困りごとを周りに告げられずに孤立する傾向にあります。気づいた時には、問題が複雑化してしまっているケースも少なくありません。

何か起きてからではなく、ライフの学校を通して、幅広い世代が日常からゆるく関わり、自然な形で『ライフ（いのち、暮らし、生きる）』に触れることで、早期にお互いに支え合い、それぞれの人生が少しでも豊

かになるような拠点にしていきたいと考えています。



▲ライフの学校を訪れた方が交流ノートに感想や思いを綴っています

取組の中で実感したこと

この取組は、子どもからお年寄りまでの幅広い世代で学校や職場、家庭とは別の第三の居場所になっていくと感じています。地域の身近なところに第三の居場所があることで、困りごとを相談する機会にもなりました。

ライフの学校では、地域における

公益的な取組と福祉事業を切り離さず、両輪の関係性だと考えています。普段は高齢・障害等、各分野に限定した支援をする私たち福祉サービス事業者が、地域の中で困りごとを抱えた人たちに気づく機会となり、適切なサービスにつながる役割も担っています。収益性も大切ですが、目の前の対象者を支援するミクロな視点と地域全体を俯瞰しケアするマクロな視点とを合わせ、バランスよく経営する必要性が高まっていると思います。この取組をとおり、福祉を地域にひらいていくことで、支援する、される側の垣根を越え、スタッフ、パートナー、地域の方と共に双方向性の関係で「まちづくり」に携わっていることを実感しています。

今後の展望

特別なイベント等ではなく、自然な形で地域に必要とされる社会福祉法人を目指しています。現在は、より地域に向き、介護予防教室や講演会の講師なども積極的に受付けています。また近隣中学校の町内会で、『ライフの学校新聞』の回覧をお願いしています。その際に、困りごとは

ないか直接伺い、地域のリアルな声を拾いながらアウトリーチにも力を入れて行きたいと思っています。そこから目の前の人とのつながりが生まれ、地域の関係性が深まっていくことで、「この地域で暮らすことでよくなった」ライフの学校があつてよかった」と地域の方もスタッフも誇りに思えるような経営を実践していきたいと思えます。



▲週末イベントオープン看取り学
老若男女様々な年代の方が聴講しに来てます

ライフの学校ホームページ <https://gakkou.life/>
をご覧くださいことができます。

ライフの学校では、紹介した地域における公益的な取組の他にも様々な取組を実施しています。

